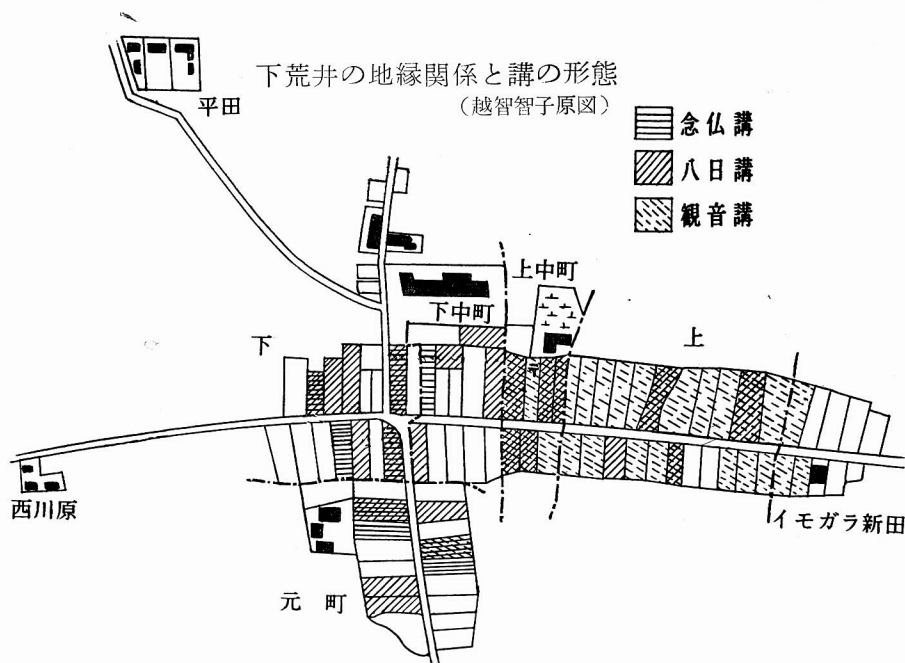


# 下荒井の地縁関係と講の形態

(越智智子原図)



たところもあり、むしろそれよりも、第一には急に不幸などのできた場合の、隣近所の相互援助の必要性があって、これに似た組制度が、慣行的にできていた所が多い。これを、無理に全国一律に一一二戸と区切ったために、むしろ割りかえを強いられて、組制度に混乱を来たしたもののさえあった。

この組を神指村辺で地組と呼んでいたのが、北会津村辺では多くは「じゅう」といった。それにどうい漢字を当てるのか、どんな漢字からでた呼び名かはわからない。若い衆などともいうから、東衆・西衆などと、地縁的集団を呼びならした言葉であろうと思うが、住と書き、中を当てたものもある。三組以上にもなると番号で組にしたものも多い。

市町村制からみた自治体の最下部組織は市町町長、同議員を公選する政治的な町村であるが、実際は、地縁的にまとまった村があって、これを古